

北海道バイオマス研修

2015年10月28日（水）～30日（金）

主催：（一社）木と住まい研究協会 事務局



下川町バイオマス
産業都市構想を知る



人口減少克服と地方創生『豊かさの幸福環』

まち・ひと・しごと創生本部（平成26年9月3日設置）

▼基本方針

地方が成長する活力を取り戻し、人口減少を克服する。
次元の異なる大胆な政策を確かな結果が出るまで断固として力強く実行していく。

▼基本的視点

若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現、「東京一極集中」の歯止め、地域の特性に即した地域課題の解決



下川町が国から受けた認定と指定

- 2008年 環境モデル都市
バイオマスタウン公表
- 2011年 環境未来都市
地域活性化総合特区
- 2013年 バイオマス産業都市
- 2014年 地域活性化モデルケース

着実な実行

下川町の人口動態

年	総人口	自然動態			社会動態			前年度との増減
		出生	死亡	増減	転入	転出	増減	
2008	3,836	28	63	▲35	134	163	▲29	▲83
2009	3,772	15	50	▲35	124	154	▲30	▲64
2010	3,707	16	67	▲51	127	142	▲15	▲65
2011	3,641	13	58	▲45	132	136	▲4	▲66
2012	3,592	24	62	▲38	147	142	▲5	▲49
2013	3,559	18	71	▲53	174	173	▲1	▲33

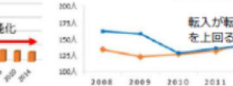
下川町の地域再生イメージ



下川町の人口



社会動態



人口減少は鈍化傾向で続いているが、社会動態が変化してきている

人口減少克服 + 地方創生(モデル)

&

東京大学北海道演習林と森林博物館（3日目）

研修趣旨

北海道下川町は、バイオマスタウン構想、環境モデル都市、環境未来都市計画、地域活性化総合特区、低炭素まちづくり計画などの認定を受け、今回「下川町バイオマス産業都市構想」を発表しました。木質バイオマスを主体とした「地方創生」に取り組み、遂に流入人口が流出人口を上回る「結果」を残しています。まち・ひと・しごと創生総合戦略や国土強靱化など、これからの基本施策を先導する取組みを行っている現地は、「知っているも行ったことが無い」方が多いのではないかと思います。今回、当社主催により研修を行うものです。

第1回 研修 テーマ「バイオマス産業都市構想を知る」

バイオマス資源を活用した地方創生で有名な北海道下川町を訪問

2015年10月28日(水)～30日(金)

■ 行程

10/28

旭川空港→下川町役場→町内バイオマス施設見学・説明会→懇親会→名寄(宿泊)

10/29

町内バイオマス施設見学→旭川空港→富良野(宿泊)

10/30

東京大学北海道演習林麓郷森林資料館→東京大学演習林内→旭川空港



ホテルではありません、町営住宅の共廊下。
この住宅群は隣接のバイオマスボイラーから暖房と給湯の供給を受け、外部通路も融雪されるので大変便利。
冬の寒さは日本でもトップクラスの地域です。



小中学校の内装に地元バイオマスを活用。
シラカバのフローアーはすごく綺麗、建具・机・イスなども町内産木材が使われる。
説明は全て役場の課長が行い外部に任せない。
強い危機感からか、役場内の結束が固い。



懇親会は町長はじめ役場の方々、林産事業者。



偶然にも日程が重なった
環境省大臣官房長の森本さん(現事務次官)など
多くの方々とは情報交換できました。



最終日は富良野の東大演習林を見学許可を得て通行しています。



林内は、手を付けない原始林と生産林に分けられて管理される原始林側は倒木もそのまま。



生産林から伐採されたトドマツ。



富良野の森林資料館。
圧巻の巨木が展示されます。



炭鉱の閉山、JRの廃線、観光の目玉も無い極寒の町は激しい人口減少に直面しましたが、役場の課長クラスが結束して対策を研究し、町の唯一の資源であるバイオマス利活用に注目しました。トライ&エラーの結果、社会増減で人口がプラスに転じたそうです。